



ツジで焼き物の授業をしてほしいと誘われたのをきっかけに、今は、アメリカンスクールで教えています。教えることで、作る人の喜び、顔を見るのも嬉しいし、その顔を見て満足感も生まれる。それが癖になってしまった感じですね。

また、僕は本当に教えられているのは自分自身じゃないかと思うこともあるんですよ。例えば、同じことを三十人の子供に教えても、みんなそれぞれ発想が違ふ。僕は自身は、例えばシーサーなら自分が習った、足の長さ、胸の長さとか色々なバランスを考えながら作るけれど、子どもたちは、自由に作る事ができる。職人の世界でできないことを子供たちは簡単にやってしまうんです。そして、

自由に作ったものはアンバランスでとても味があるんですね。そういうものをみると、羨ましいなと思います。

続けることが夢への近道

僕の夢は、今の仕事を続けていくことで、沖縄の焼き物を広めること。沖縄には、いろんな国の人が来ますから、その人たちに教えると、それを持って帰り、周りの人に広めてくれるんです。買ったシーサーを見せられたら自分も欲しいと思うように、作ったシーサーを見せられたら自分も作ってみたいと思いますよね。焼

糸数 ホルへ(いとかず ほるへ) プロフィール

1962年8月8日生まれ
ペルー出身の県系3世で祖父母、父母ともに沖縄出身。
21才で来県し、壺屋で陶芸を学ぶ。
現在は、陶芸家として独立し、アメリカンスクールなどで陶芸教室や講座を行いながら陶芸を通して、沖縄の文化を広めている。

き物を教えた人がまた別の人を連れてきて、ピンポン玉みたいに跳ね返って戻ってくる。そういう風に沖縄の焼き物が広がっていくのがよくわかるんですね。

僕は、昔よりも今の方が沖縄の焼き物を好きになっていきます。今は、自分が学んだことを教えることができます。ですから、夢を叶えるには、自分ができることを見つけて、それを続けていくことが大切なんですね。



カリフォルニアの土を使った迫力あるシーサー

陶芸を教えることで、世界に伝える沖縄の文化

だが、南米にはそういう仕事はほとんどないんです。卒業後にきちんと収入のある仕事をとったら、やっぱり美術関係の大学を選ぶことはできませんでした。そのせいもあって、大学は二年で辞めてしまいました。あまり、勉強熱心ではな



僕は、ペルーで生まれて、小・中・高・大学二年までずっとペルーに住んでいました。ペルーに暮らす日系人は、日本人学校に通うのが普通ですが、僕は現地の学校に通っていました。同じ日系人と仲良くするのも大切だけど、現地の学校で、様々な人と出会って、視野を広めてほしいという気持ちが両親にはあったようです。同級生のユダヤ人やイタリア人のパーティに参加したりして、いろんな国の文化に興味を持つようになりました。

大学での専攻はエンジニアです。本当は、美術関係を学びたいと思っていま

様々な文化にふれた様ペルーでの生活

おきなわ 夢人列伝

ゆめんちゆれつでん

今できることを続けることで、未来は開かれる

つたんですよ(笑)。

人生を見つめ直すための来県

沖縄に行くきっかけは、父の二十五年ぶりの沖縄帰省です。ちょうどその頃、僕は大学を辞めていて、両親がとても心配していました。自分でも、自分の人生はこのままではいけないと思っていたんですね。そこで、以前祖父から話を聞いて興味を持っていた、沖縄の焼き物の勉強をしようと思えました。

沖縄に来た当初は、自分が日系人だということにすごくハンデを感じていました。道を尋ねたり、何か手続き

渡米、独立、新しい道

沖縄を代表する陶器「壺屋焼」の発祥の地、壺屋で学んだ後、アメリカに焼き物の勉強をしに行きました。その頃、沖縄で伝統的なものをメインに作っていたせいか、僕の作るものは何だか固い感じでした。それを少しでも崩したくて、アメリカに行ってきたんです。そこで色々なスタイルで作られた作品を見て、焼き物のスタイルはひとつじゃないということを感じるようになりました。

それから一年半後に沖縄に戻り、独立しました。独立後、陶芸家として仕事をしていました。知り合いにカレ



糸数さんの個性あふれる焼き物

糸数 ホルへ

をしようとしても、顔は日本人なのに日本語を話せないから相手に面倒そうなの顔をされてしまうんです。当時は今と違って、そういう人に対する対応が整ってなかったんですね。

編集後記

初老の男性が二人、モノレールの向かいの席で談笑していた。久しぶりに会ったのであろうお互いの近況報告。身振りを交えた会話には心が通っていて、ハタから見ても、とても楽しそう。ウチナーグチって感情表現が豊かだなと思った。(ほり)

無性に本が読みたくなり、久しぶりに図書館へ向かう。暑い夏、涼しい館内で雑誌をめくりながらリフレッシュ。快適な読書環境に思わず、日頃あまり読まない本にも手が伸びる。夏の図書館、かなりおすすめです♪ (あるく)

沖縄県広報誌 平成18年8月1日発行第30巻8号通巻371号

美ら島 沖縄

企画・編集 沖縄県広報課 制作・印刷 株式会社 宣伝
発行 沖縄県広報課 〒901-2122
〒900-8570 浦添市勢理客四丁目15番15号
那覇市泉崎1-2-2 電話(098)871-2111
電話(098)866-2020

沖縄県 広報番組 テレビ・ラジオ

8月放送予定

5日・6日 / 沖縄県キャリアセンター
12日・13日 / 県中央卸売市場
19日・20日 / ユネスコ研究会
26日・27日 / ジュニアスタディーツアー

テレビ / 放送時間
●RBC 6:15 ●GAB 11:30 ●OTV 11:30

<http://www.pref.okinawa.jp/> 沖縄県ホームページ→広報課(テレビ・広報誌等)

番組に対するご意見・感想をお待ちしております。 県広報課 TEL.098-866-2020 FAX.098-866-2467 e-mail:kouhou@pref.okinawa.jp

ラジオ県民室

「ラジオ県民室」ではお昼のひととき、県が実施する行事、催し物、各種試験や募集のお知らせなどを行っております。

ラジオ / 放送時間 毎週月曜日～金曜日
●ラジオ沖縄(864KHz)12:10～12:15
●RBCラジオ(738KHz)11:55～12:00
●FM沖縄(87.3MHz)12:55～13:00